

0 はじめに

- (1) 策定の趣旨 「総合計画とは」「策定にあたって留意した点」などを記載
- (2) 計画の構成と期間 「総合計画の構成」「計画期間」などを記載。
- (3) 美幌町の概要 立地、沿革、産業、人口などを記載
- (4) 考慮すべき社会背景
 - 1) 人口減少・少子高齢化について
人口減少・少子高齢化の進行により、人口規模そのものが縮小していくことが避けられない状況にあり、限られた人材や地域資源の中で持続可能な地域づくりが求められている。
 - 2) デジタル化の普及とAIの活用について
働く世代の減少が進む中、デジタルやAIの活用は、人材不足を補い、業務の効率化や省力化を図るための有効な手段となっているほか、行政手続や内部業務の効率化にとどまらず、医療・福祉、産業、防災、地域活動など、さまざまな分野でデジタルやAIの活用を進めていくことが求められる。
 - 3) 安心・安全の確保について
気候変動により自然災害の激甚化・頻発化が進んでおり、防災・減災対策の強化が求められている。インフラの老朽化対策、感染症への備え、医療・福祉サービスの維持など、安心・安全な暮らしを守る取組の重要性が増している。
 - 4) 行財政運営について
人口減少のなか行政主導から、住民、地域団体、企業など多様な主体が連携・協働し、共に地域を支えていく体制づくりが重視されている。行政面では地方交付税の減少リスクや公共施設の適正管理など、持続可能な行財政運営が課題となっている。
 - 5) 環境・エネルギーについて
2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、再生可能エネルギーの導入促進や循環型社会の形成が求められている。
 - 6) 多様性と共生について
多文化共生社会の推進、ジェンダー平等の実現など、誰一人取り残さない社会づくりが求められている。
- (5) 美幌町の課題
 - 1) 人口減少・少子高齢化への対応
人口減少が続いており、関係人口の創出や子育て支援の充実、若者の定住促進が求められている。
 - 2) 地域経済の活性化
商店街の空洞化、事業承継問題、農業の担い手不足など、新たな産業の創出や雇用の場の確保が必要である。
 - 3) コンパクトなまちづくり・交通・インフラの維持
人口減少や高齢化に対応してコンパクトな市街地形成とにぎわいづくりが課題となっている。
公共交通の維持困難や道路・橋梁の老朽化が進んでおり、生活を支える交通やインフラの確保・維持が重要である。
 - 4) デジタル社会・AIの活用への対応
高齢者を中心としたデジタルデバイドの解消や行政手続きのオンライン化推進など、すべての町民がデジタル化の恩恵を享受できる環境づくりが必要である。
 - 5) 教育環境の整備
児童生徒数の減少や学校施設の老朽化が進む中、ICT教育の推進や多様な学びの場の提供が課題となっている。
 - 6) 地域コミュニティの維持・強化
自治会加入率の低下や担い手不足により、コミュニティ機能の維持・強化と地域活動の活性化が必要である。
- (6) 町民のまちづくりに対する評価
 - 1) 住みごころについて
町民アンケートでは約65%が「住みやすい」と回答し、自然環境の豊かさが高く評価されている。一方で、買い物の不便さや公共交通の不足が課題として認識されている。
 - 2) 将来の美幌町に望む姿について
「子育てしやすいまち」「医療・福祉が充実したまち」「安心して暮らせるまち」「働く場所があるまち」「自然環境が守られたまち」といった意見が多く、生活基盤の充実や雇用の確保、自然環境の保全を重視する意向が示されている。
 - 3) 今後のまちづくりで特に重要と思うことについて
医療・福祉の充実、子育て支援の充実、雇用の場の確保、公共交通の維持・確保、商業機能の維持などが重要とされている。また、若者の定住促進や地域経済の活性化、移住・定住の促進など、持続的な発展に向けた取組を期待する意見も寄せられている。

1 基本構想

(1) 将来像

【考え方】

(2) 人口の指標

第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンから人口推計を抜粋し掲載。

(3) 基本理念

【考え方】

将来像を実現するために、町民・事業者・団体・行政が共通して大切にしている価値観や姿勢を示すものである。『びほろ』みらいまちづくり会議では、「行政任せではなく、町民が主体的に関わることの必要性」「できる人が、できることに関わる仕組みが必要」といった意見が出されており、課題からはデジタル化・AIの活用の視点、多様性、豊かな暮らしを実現するまちづくりの視点なども重要と考えられる。

- 【設定の方針】
- 「(町民を主体としたまちづくりの視点) 」
 - 「(先進技術を活用したまちづくりの視点) 」
 - 「(多様な人々が暮らしやすいまちづくりの視点) 」

(4) 基本目標

将来像の実現に向けて取り組んでいくための「6つの目標」、そしてその目標を象徴する「漢字1文字」を設定。さらには、重点的に取り組む内容を「重点プロジェクト」として設定する【考え方】
※重点プロジェクトは、具体的な取組について議論する「基本計画」とあわせて設定する。

基本目標1 **時代の変化のなか、地域力を活かした共創による安心なまち**

安

【考え方】住民と行政が共創する体制の構築。人口減少等により時代が変化しても、先進技術を活用して安心と信頼を支えるまちづくり。

重点プロジェクト：

基本目標2 **日々の暮らしやすさを紡ぎ、だれもが住み続けられるまち**

紡

【考え方】だれもが日常生活を維持できる環境。暮らしを支える仕組み、そして身近な見守りが自然と生まれる地域による、生活の不安や不便を感じにくいまちづくり。

重点プロジェクト：

基本目標3 **日常のつながりを協働で育て、福祉につなげる あたたかなまち**

協

【考え方】困りごとを行政や町民、事業所による地域全体で支え合う環境。人と人とのつながりの重なり合いにより、関係性そのものが福祉として機能する、あたたかなまちづくり。

重点プロジェクト：

基本目標4 **農・観・商が連動し、新たな「産」が生まれ続ける活力あるまち**

産

【考え方】農林業・商工業・観光が有機的につながり、新たな「産」を生み出す。人が集い、挑戦が生まれ、地域全体に活力のある経済を育てていくまちづくり。

重点プロジェクト：

基本目標5 **暮らしと環境が支え合う コンパクトで持続可能なまち**

環

【考え方】コンパクト化による暮らしやすい都市構造の形成。中心市街地ににぎわいが感じられる拠点形成とともに、資源が循環する仕組みを取り入れ、持続可能なまちづくり。

重点プロジェクト：

基本目標6 **多様な学びで個性が輝き、未来に羽ばたく力を育むまち**

輝

【考え方】国際的な視野とふるさとへの誇りと愛着を併せ持つグローバル人材の育成。また、若者や高齢者まで、自分に合った学びが選択でき、誰もが輝く未来を描けるまちづくり。

重点プロジェクト：